

田中誠太とみんなの約束

● やおマニフェスト ●

行財政改革

行政は最大のサービス産業

- 抜本的な行財政改革プログラムを策定し、早急に財政再建に取り組みます。
- 市職員のみならず、外郭団体や関連団体のコンプライアンス（法令遵守）意識を高め、契約等の不合理性や行政対象暴力の徹底排除を行います。
- 国の三位一体改革の大幅修正を求め、基礎的自治体として自立した八尾市を目指します。
- 上下水道を一本化するなど、市役所のムダを排除します。
- 市道や公園、小中学校のみどりを一元管理し、市役所の効率化を図ります。
- IT化を積極的に推し進め、地域電子ネットワーク社会を構築し、行政手続きの大半がインターネットでも可能になるようにシステムを構築し、「ノンストップサービス」の実現につとめます。
- コンビニ収納など多様な収納方法を採用、徴税率を上げ、自主財源確保につとめます。
- ネーミングライツをはじめとする資産活用や、貸付金、出資金など債権等の有効活用について、具体化をすすめ、自主財源確保の多様化を図ります。

親切丁寧な市役所を創ります

- 市役所に総合窓口を作り、引越しなどの手続きを便利にします。
- 福祉総合窓口を作り、福祉手続きを簡単にします。
- 生涯学習センターや大規模商店などに住民票の交付機設置を進めます。
- 市民サービスコーナーを発展させ、夜8時まで諸証明が即時交付できるようにします。

職員の政策立案能力の向上

- 八尾再生の実現に必要な職員の資質向上のため、大学や研究機関と連携し、庁内勉強会の開催や職員の出向などを行います。

情報公開・市民参加

徹底した情報公開・ガラス張りの市政運営を行います

- 競争入札制度を徹底させ、電子入札を更に促進し、指名競争入札から一般競争入札に移行します。
- 審議会などの会議もすべて公開し、会議録を発行するとともに、インターネットで検索できるようにし、市民に開かれた市政を目指します。
- 議会とお互いの立場を尊重しつつ、政策形成能力向上のための共同方策を進めます。
- 議会での答弁などは、分かりやすくします。
- 市民自治基本条例を制定し、八尾市の向かう方向の基本を定めます。
- 政治倫理条例を制定し、開かれた市政を進めます。

市民の共同参画を強力に進めます

- 予算の1パーセントを市民からの提案や公募などによる施策のために使い、市民主体のまちづくりを押し進めます。
- これまでのように施策を行政が立案し、市民に提示する「市民参加型」ではなく、素案の作成の段階からかかわる、「市民との協働・市民参画型」の施策実現を目指します。
- となり近所の町会、民生委員、保護司などの集まった地区福祉委員会、企業、NPO、各種団体との協働で、まちづくりをおこなう地域経営（ローカルガバナンス）を、明瞭な指標を立てて、押し進めます。
- 現在のラウンドテーブルをより実効性のあるものにするため、出張所機能の再編とあわせて、地域まちづくり活動の支援を行い、地域分権を進めます。
- 積極的に活動する市民を支援するサポートセンターを再構築し、政策研究機関と一体となった協働の場づくりをし、さらに実体的に機能するものにします。
- 現在の老朽化した中央図書館について、市民が計画し決定に関わる、本当の意味の、市民中央図書館にします。

福祉・医療

地域福祉を推進します

- 地域福祉全体のマスタープランである、地域福祉計画を社会福祉協議会と共同で策定し、地域福祉における行政の役割と社会福祉協議会の役割を明確にしたうえで、これに沿ったアクションプログラムを作ります。
- 地区福祉委員会と連携して、一人暮らしの高齢者の「見守りネットワーク」をさらに広げ細分化し、町会単位でネットワークを張るよう体制を構築します。
- 認知症などの将来の不安の解消のために成年後見制度を活用するとともに、市内金融機関などと連携し、市民の財産を守るシステムを作ります。
- 社会福祉協議会との緊密な連携をはかり、ボランティアセンターを活性化するなど福祉の重層化につとめます。
- 包括支援センターを、市独自で保健師などの専門職を積極的に配置し、高齢者だけでなく、障害者や児童を地域で支える総合的な地域福祉拠点として活用させます。

高齢者福祉を推進します

- 街かどデイハウス事業をさらに推し進め、高齢者が集える空間を提供します。
- シルバー人材センターの就業率を上げ、単純作業主体から専門技能への特化を図ります。

障害者福祉のさらなる向上に努めます

- 包括支援センターの機能充実により、地域における障害者の支援システムを構築します。
- 障害者向けタクシー利用制度の創設を図ります。
- 無認可の福祉作業所に対し、法人または小規模法人に移行できるよう支援を行います。
- 精神障害者の作業所は余りに少なく、これを府との連携のもと、大幅に増やし、家庭から社会への参加を促進します。
- ユニバーサルデザインの啓発を進め、すべての人が暮らしやすい住環境を目指します。

保健・医療の連携と健康づくり

- 救急救命ドクターカーを導入し、一刻でも早く貴重な命が救えるよう努めます。
- 救急救命士を大幅増員し、救急体制の整備を抜本的に図ります。
- A E D（自動体外式除細動器）の配備とともに市民への啓発を行います。
- 小児科及び産婦人科の広域的確保調整を主体的に行い、中河内圏での充実を図ります。
- 市立病院と市訪問看護ステーションとの連携により、在宅医療における公共的役割を果たします。
- 保健師の徹底した訪問指導・訪問活動などで疾病予防を図り、有病率の低下を目指します。
- 市内のすべての公共施設・機関を禁煙とし、受動喫煙の防止を図ります。
- 国民健康保険加入者に対する健康チェックを実施し、医療費全体の抑制を図ります。

教育・文化

より良い教育環境をつくれます

- インターンシップを推進し、子どもと地域のつながりを大切にします。
- 将棋、囲碁、綱引き、ディベートなどの「八尾1番」を競い、楽しむ学校教育を行います。
- 子どもを守り、楽しく勉強できる環境を整備します。
- 「8020運動（80歳で20本の自分の歯）」を推進し、元気な子どもを育てます。
- 義務教育の段階から身近な地域の伝統文化を学び、将来に伝えることができるよう、学習カリキュラムに八尾文化教育を積極的に取り組みます。
- 引きこもりの青少年が参加しやすいシステムを構築し、青少年ネットワークを立ち上げ、ふれあいの場を作ります。
- 放課後児童室を6年生まで延長します。

真の幼保一元化に向けて

- 資格取得、育児疲れ等を理由とした幅広い、保育のショートステイの利用を図ります。
- 国の縦割り行政の象徴でもある認定子ども園条例に対して、特区制度などの活用により、真の幼保一元化に向けて積極的に取り組みます。

八尾の文化を育て、生活を豊かにします

- 文化力の向上と豊かなスポーツ環境の整備を行います。
- 予算の1パーセントを文化関係に配分し、行政の文化化を進めます。
- 伝統文化の活性化と新しい文化の育成を行い、「河内文学賞」の創設を図ります。
- 巨大なスポーツグラウンドを整備し、ソフトボールやサッカー、野球、ラグビー、グラウンドゴルフ、ゲートボールなどが行える場所を提供し、元気な八尾を創ります。

生涯学習を推進します

- 講座OBの能力をさらに高め、講座運営などを主体的に行い、市民自らが作り運営する市民講座にします。

人権・子育て・国際交流

人権・男女共同参画社会を目指して

- 社会的に弱い立場にあるすべての人々への理解を深め、人権が尊重される八尾を実現します。
- 高齢者虐待について、ケアマネージャーや民生委員、施設など官民協働で防止します。
- セクシャルハラスメントやストーカーについて、警察だけでなく、その予防措置として企業研修をすすめるとともに、その組織内に、救済機関を作るよう指導します。
- 学校教育で人権教育や男女の性差別の解消を推し進め、将来にわたって人権意識の醸成、差別のない社会を構築します。
- 久宝寺緑地におけるホームレスへの自立支援を府とともにを行います。

児童虐待・いじめの徹底排除

- 児童虐待について、市独自に保健師活動とケースワーク活動の充実や府の児童相談所と連携をとり、緊急措置を講じます。
- 八尾警察・児童相談所と連携を図り、家庭の中に入り、児童避難対策を採ります。
- いじめの根絶は、学校の自律的行動と独自予算にかかっています。学校運営に、地域やPTA、NPOなどが参画できるよう学校理事会制度の導入を検討し、第三者の眼を光らせます。
- 市独自に「いじめ110番」を設置し、すぐに教育現場にかけつけるシステムを作ります。

家庭内暴力（DV）を防止します

- 幼児期から高校生まで成長に応じて、非暴力コミュニケーション術や加害者プログラムなどの学習やエンパワーメントの機会を保障し、DV防止にむけて強く働きかけます。
- DV被害者が生活の基盤を作り、早期に自立できるよう、公営住宅の活用など支援制度を創設します。
- DV被害者を支援するNPO、特に民間シェルターを運営するNPOに財政的支援を府とともにを行います。
- DV被害者の自立のための就労支援を、国、府とともにを行います。

子育て支援策を推し進めます

- 保育所に子育て支援センターを設置し、家庭で子供を育てているお父さん・お母さんを強かにサポートします。
- 保育所への待機児童を解消し、お父さん・お母さんが安心して、働き、介護でき、暮らすことができる環境を作ります。
- 保育時間を大幅に延長します。
- ひとり親の家庭に、ホームヘルパーの派遣や一時保育を行い、生活を支えます。
- 子育てのための休暇取得・勤務時間短縮ができるよう、市内の企業に働きかけます。

- 企業内保育のサポートを行い、産業の振興、雇用の確保などの産業振興施策と一体となった子育て支援を行います。
- 里親制度について、府だけでなく、その実情に詳しい市も主体となって新しい家庭創造プログラムを作ります。

内なる国際化を推進します

- 八尾は国際色の豊かなまちです。国際化を進め、すべての国籍の人が、ともに楽しく暮らせる八尾のまちを創ります。

産業・環境

産業・農業の振興を図ります

- 市内の商店街の活性化のために空き店舗を利用し、子育てルーム、若手作家の作品の展示、ボックスフリーマーケットなど既存以外の空間をつくり、賑わいのある商店街を目指します。
- 中小企業の製造業の高度特化をはかり、府と共同で研究センターを設置し、大学と共働してモノづくり日本一を目指します。
- 市内の中小企業が経営上の課題等について相談できるサポートセンターについて、弁護士、公認会計士、税理士、診断士などの相談員を大幅に増やし、実のある支援センターを再構築します。
- 海外との取引における、法制度や取引慣習などの違いによるリスクを回避するため、ワンストップ相談窓口の開設を図ります。
- 雇用・就労について、ハローワークやジョブカフェだけでなく、市が独自に市内の雇用を細かく把握し、総合的な窓口としてその機能をはたします。
- 都市農業としての八尾の農業を活性化するため、直売所の拡大、農業の担い手育成確保、農業経営の品目管理などを推し進めます。
- 農業の生産性向上として、横断的な所得安定、食育や地産地消、学校給食と連携し、今後の農業の発展を図ります。
- 21世紀を担う後継者を育成するために、次世代育成セミナーを実施します。

循環型社会を目指します

- 3R（廃棄物の発生抑制・リデュース、再利用・リユース、リサイクル）を推進し、循環型社会を目指します。
- 八尾市が配布する資源ゴミなどのゴミ袋について、その配布数を適切に見直します。
- 有価物集団回収をさらに推し進め、地域全体で取り組むシステムを作ります。
- 環境に優しいまちづくりを進めるため、自転車道の整備を府とともに行います。
- 温暖化防止のためのクリーンエネルギー、バイオディーゼル燃料の活用を図ります。
- ヒートアイランド対策として、壁面緑化、屋上緑化、駐車場の芝生化、高反射塗装などのモデル施策を市の施設に実施し、民間業者にこの取り組みを啓発します。

まちづくり

鉄道駅のバリアフリーを進めます

- 八尾市内鉄道駅へのエレベーター設置を促進し、交通バリアフリーを進めます。
- 身体障害者用トイレ、スロープ、エスカレーターなどの設置など駅舎全体のバリアフリー化を進めます。

住みやすいまちづくりを進めます

- コミュニティバスは効率面から積極的に見直しをおこない、新たな交通体系網の構築を進めます。
- 硬直化した都市計画の用途地域や都市計画道路を柔軟に見直します。
- 農免道路を神立から服部川まで延ばし、市内東部の山麓線の整備を図ります。
- 市民病院跡地、地下鉄八尾南駅前、水環境保全センター上部地、旧八尾南高校や清友高校、八尾空港西側跡地など、公共空地の有効利用を図ります。

安全・安心

安心・安全なまちづくりを目指します

- 市内の企業、運送業者、タクシー会社と連携し、車から子どもを見守る体制を強化します。
- 特にすべての公用車、準公用車、外郭団体の車に啓発ワッペンを貼り、重点的に見守り活動を行います。
- 市内のNPO等と連携し、ブルーパトカー（青色回転灯車）で市内全域のパトロールを行います。
- 通りに面した明かりを灯す「一戸一灯運動」の推進や街灯の増設により、明るい八尾のまちを実現し、犯罪のない安全なまちづくりを進めます。
- 人口が急増するJR久宝寺駅前に、警察官常駐の交番を作ります。
- 市民への多角的な情報提供にEメールや携帯メールを活用します。
- 八尾空港や周辺地域について、災害に強いまちづくりを主点に、その整備や関連道路建設を行い防災基地としての役割を果たします。

地震・防災対策を進めます

- 東南海、南海地震、上町断層、生駒断層に起因する地震に対応できる八尾市地震防災戦略を構築します。
- 八尾市消防や自衛隊などの防災機関、住民、企業、医療機関、各種ボランティア団体など広範な組織が参画し、他市とも連携する実践的な防災体制を作ります。
- 災害発生時に役立つ「企業貢献バンク」を設立し、災害時に実効ある情報交換と支援を行います。